



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
 代表：土屋 至
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
 聖パウロ女子修道会内
 TEL 03-3479-3941 E-mail：info@signis-japan.org
 http://signis-japan/org/

聖母被昇天をお祝いいたします。

教皇フランシスコは、司祭時代にドイツで学んでいたとき、一枚のマリアの絵と出会いました。夫婦の危機を救うために描かれたその絵は、「結び目をほどくマリア」というタイトルが付けられています。その絵は、教皇がドイツから母国アルゼンチンに帰国してからはアルゼンチンで広がり、教皇になったことで世界的に知られるようになりました。そして、今年、「ローマ法王になる日まで」の映画を通して、日本でも爆発的に広がっています。マリアが対立する心を取り除き、一致へと向かう道に進むことができるよう、結び目をほどいてくださいますようにと祈りましょう。



SIGNIS JAPAN ミッションステートメント

2017年5月27日
 SIGNIS JAPAN 総会にて
 決定しました。



福音的な映画を紹介し
 福音的なインターネット文化を育て
 福音的にメディアを用いる個人・団体を 応援することで
 人を隔てるあらゆる壁を超えて
 普遍的平和をもたらす
 キリストの福音を広める

シグニス世界大会 参加報告

2017年7月19日～22日の4日間、カナダ・ケベック市に於いて、「希望の物語を広めよう」をテーマに4年に一度のシグニス世界大会（SWC）が開催され、日本からは土屋会長、町田事務局長に加え、カトラジから浅野澄（さやか）さんが参加しました。

最初の2日間は朝から晩までプログラムが組まれ、全体会議（約300人）では講演・パネルディスカッション、分科会では各種発表他があり、夕食後はシグニスアジア会議という超過密日程。3日目は北米カトリックプレス協会（約200人）との合同勉強会と映画「沈黙-サイレンス-」の鑑賞およびスコセッシ監督のお話、夕方はケベックの街に出て、カテドラルでのラクロワ枢機卿によるミサ、そして晩餐会。4日目は各地域役員出席の代議員会と目まぐるしい日程ながら、実りの多い1週間でした。



See you In 2021!

アジアの役員改選で新体制は新任・留任 各3名、退任3名。私の1期4年間のアジア役員経験は個人にとっても日本にとっても大変貴重なものでした。改めて皆様に感謝します。

次回4年後の2021年の世界大会開催地には韓国が名乗りをあげ喝采を受けました。（右の写真）（町田）

SWCに参加して
浅野 澄（カトラジ）

参加した分科会の中で印象に残ったのは、昨年参加させて頂いたラジオセミナーのトレーナーだった神父様による「Music and Hope」でした。音楽が何故若者に必要なのか？ 何故福音宣教に音楽が必要なのか？ たとえ言葉が通じなくとも音楽は直接心に訴える。様々なレーベルのアーティストや宗派を超えた音楽イベントの例をあげ、音楽を通じ、新しい世代に教育や宣教の再構築ができるとお話を伺う事が出来ました。また SIGNIS に MUSIC DESK を作り、アーティストと教会と一緒に面白い事が出来たら…とそんなお話も。音楽を通して、神様を愛し、讃えていこうという体験の共有は心に直に届くのでしょうか。

他にも参加したラジオのセッションでは、各国の現状やラジオ app（アプリ）の作成とネットワーク構築、資金作りの為のCM制作など、組織の目標にいかにか近づけるか参考になるものもありました。カトラジでも様々な企画が日々検討されています。届けたい世代の文化と上手く合わせられる番組の活かし方、カトラジの活かし方を考えながら、また進んで行きたいと思います。



浴衣で記念撮影 左から町田、土屋、Lawrenceさん（ケニア）、浅野



日本カトリック映画賞 広がる喜び

2017年5月20日(土)、なかのZERO大ホールにて、第41回日本カトリック映画賞「この世界の片隅に」(片淵須直監督)の授賞式および上映会が行われました。戦時下の厳しい状況にあっても、人と人が互いに大切に生きていくことの尊さを描いたこの映画の感動が、満席の会場に広がりました。

「この世界の片隅に幸せが訪れない限り、誰も幸せにならない。そんな当たり前のことに、もう一度気づかせてくれました」シグニス ジャパン顧問司祭、晴佐久昌英神父が語った授賞理由です。



右から 片淵監督、
土屋会長、幸田司教

片淵監督と晴佐久神父の対談では、アニメ映画の魅力や制作の裏話などにも話しが弾み、映画と合わせて話しを聞く楽しみを満喫することが出来ました。聴覚障がい者に向けての手話と要約筆記のサービスが、「東京カトリック聴覚障がい者の会」のご協力で昨年引き続き、今年も実現しました。またインターネットラジオ「カトラジ」のスタッフたちが特別ラジオ番組を制作するために片淵監督にインタビュー取材をするなど若い人たちの活躍する姿も目立ちました。今回も大勢のボランティアの方々に支えられての授賞式と上映会でした。

「カトリック映画賞なんてあったの」当初はこんな声も聞かれましたが、次第にカトリック映画賞を知る方が増えています。長崎県内でもこの映画が自主上映されます。主催は「この世界の片隅に in 長崎」。おかげで長崎、五島、諫早、島原、大村、佐世保などの皆さんがこの映画と出会うことになり、シグニス一同喜んでいきます。

「映画は人と人をつなぐ」これを信じてこれからも活動を続けていきたいと思っています。

(映画チーム 鈴木 浩)

賛助会員と捧げる感謝ミサ

～2017年 SIGNIS JAPAN 感謝ミサを終えて～

7月15日(土)、2017年度のシグニス ジャパン「感謝ミサ」が、晴佐久神父様司式により行われました。今年の夏も暑い日が続く、この日も非常に気温が高い日でしたが、ミサに参加するわたしたちが集まる時間には、浅草教会内は過ごしやすい温度になっていて、和やかな雰囲気の中でミサが始まりました。

この日は「聖ボナベントウラ司教教会博士記念日」で、晴佐久神父様の堅信名が「ボナベントウラ」ということ、聖ボナベントウラ司教教会博士への尊敬の念をお話してくださいました。

また、説教の中で、「毎年ここに集うわたしたちは“福音家族”であり、支え合いながら福音を伝え、実践する仲間である」と、晴佐久神父様からの心強いお話に日々の生活で抱えてしまう心の疲れを吹き飛ばしていただきました。

毎年恒例のシグニス感謝ミサは、晴佐久神父様が御自身のエピソードを混ぜてお話して下さいますが、わたしたち参加者から思わず笑いが出たり、クスツとしてしまう方々が

いたり、神父様のお名前のように、気持ちが「晴れやかになる」ミサであると感じています。

ミサ直後の記念写真撮影は、「晴れやかな気持ち」と共に、笑いが起こりながら行われたのは言うまでもありません。

ミサ後の皆様の笑顔に、毎回爽快感で満たされます。
GOD BLESS

(カトリック高輪教会・メイコック智絵実)

昼食をはさみ午後からは、自己紹介やグループミーティングで「教会活動でどんなことをしているか。また誇りに思うこと、気になること」を話し、新しい発見など多くのものを分かち合うことができました。このような時間を共有することによって、賛助会員の方々と距離がとて身近に感じられた1日でした。(谷口)



賛助会員募集

と一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。

会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

どうぞよろしくお願ひいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至